【短報】夜間に車の屋根やボンネットに飛来したチャイロチビゲンゴロウと，飛び立つ時のポーズについて

チャイロチビゲンゴロウ *Liodessus megacephalus* (Gsctnerhwend) は体長 2.6 ～ 3.4 mm の小型のゲンゴロウで，本州，四国，九州から南西諸島に広く分布している．海岸線に沿って生息していて，塩水の混じるようなタイドプールや荒れ地の水たまり，湿地などに生息する種である．筆者らは野外に駐車していた乗用車の屋根やボンネットに，夜間に飛来したと思われる多数の本種が付着しているのを早朝に見つけた．また，採集しようとすると車体上から飛び立ち，その時に独特のポーズをとることを観察したので報告する．

飛来について

沖縄県石垣市名蔵において 2011 年 4 月 28 日朝 7 時ごろ，出発しようと車に乗り込んだところ，車の中からフロントガラスの外側に付着する小さな甲虫が見えた．下車して見ると本種が付着していて，さらに車体を見わたすと屋根やボンネットのあちこちにばらまいたように本種が付着していた．小型種なので車体についた夜露の水滴に閉じ込められているかのように思えたが，そうでもなくただ動くことなく車体に付着しているようであった．採集しようとすると，小型なうえ意外に俊敏で，平滑な面上から指で潰さないように採集するのが難しく，採集できたのは 6♂♂, 1♀ であった．性比を論ずる個体数ではないが，ゲンゴロウ類の一般的な能力としてオスの跗節が発達していて，光沢な面に付着する能力が高いためオスがこの場に残り，跗節の単純なメスは落下あるいは足元が安定しないため，早いうちに飛び立ってしまったのかもしれない．

このような場所に本種が多数飛来した理由を考えた．近年はほとんど観察されなくなっていると思われるが，夜間（月夜の場合？）にゲンゴロウ類がトタン屋根や金属等の照り返しのある家屋の屋根に飛来することが知られている．大型の種では追突する音まで聞こえるとのことである．この現象は夜間に屋根から照り返す水平の光が，ゲンゴロウ達には池や川の水面のように見えるためであると解釈されている．筆者らの観察例は，この屋根の代わりに光沢のある車体が水面に見えたものかも知れない．特にこの車は傷や汚れはなく，ブルーを帯びた明るい灰白色であった．またこの車から 15 m 程離れたところに水銀灯があり，その距離的にあまり強くない微妙な光が車を水面らしく見える効果を上げたかもしれない．

図1. 車体から飛び立とうとした瞬間のチャイロチビゲンゴロウ．撮影は朝の自然光で行った．

飛翔時のポーズについて

図 1 は本種が今まさに飛び立とうとしたところの写真である．特徴的なのはすべての脚を強く突っ張って，腹面を高く地面（車体）から離していることである．さらに前脚はまっすぐに伸ばして上半身を高く持ち上げている．特にこの姿勢をとるために，柔らかい跗節までが垂直に突っ張っていて，通常みられる甲虫類が飛翔する時の姿勢とはかなり異なるものである．森・北山（1993）によると，飼育下の観察で「水の表面張力を利用して体の前方から順に水面上に完全に立ち上がり飛び立つ」とのことである．今回の観察は全くこれと同じように見えるもので，飛翔するにあたり陸上でも水面と同じポーズをとったものと思われる．

ちなみに，図 1 は動画撮影したものを静止画に切り取ったものである．静止している虫体にカメラが近づくとかなり俊敏にこのポーズになり，ただちに飛翔してしまうため動画としての利点があまりなく，発表はこの写真だけにした．図は飛ぶ直前で，会合線がわずかに開いたところであるが，この後すぐにカメラの視界から消えた．

なお，撮影は宮城が行った．

引用文献

森　正人・北山　昭，1993．図説日本のゲンゴロウ，66–67．環境科学株式会社，大阪．

（楠井善久　643-0004　有田郡湯浅町大字湯浅 1043）
（宮城秋乃　900-0032　那覇市松山2-2-13 日産商事ビルIF MBE155）